再評価結果（平成１６年度事業継続箇所）

担　当　課：国道・防災課
担当課長名：中島　威夫

事業名	一般国道２３号　中勢（ちゅうせい）道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：三重県鈴鹿市北玉垣町（みえ すずか きたたまがき） 至：三重県一志郡三雲町大字小津（みえ いちし みくも おづ）			延長	２５．０km

事業概要

中勢道路は、現国道２３号の交通渋滞を解消するとともに、交通事故減少と地域開発等を支援し、地域経済の発展に寄与することを目的に計画された延長３３．８ｋｍ（事業化延長２５．０ｋｍ）の４車線バイパスである。

Ｓ５９年度事業化	Ｓ５８年度都市計画決定	Ｓ６１年度用地着手	Ｓ６３年度工事着手

全体事業費	約１，６００億円	事業進捗率	３２％	供用済延長	１０．９km
計画交通量	５５，８００台／日				

費用対効果分析結果	Ｂ／Ｃ	総費用（残事業）/（事業全体）	総便益（残事業）/（事業全体）	基準年
	(事業全体) 8.2 (残事業) 11.0	1016/1364 億円 事　業　費：914/1262億円 維持管理費：102/102億円	11211/11211億円 走行時間短縮便益：10633/10633億円 走行費用減少便益：292/292億円 交通事故減少便益：286/286億円	平成１５年

事業の効果等

・円滑なモビリティの確保（現道の旅行速度の改善が見込まれる）
・個性ある地域の形成（拠点開発プロジェクトを支援する）　　他１３項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

中勢道路は、地域支援の促進、交通混雑の緩和等に主要な役割を果たすことが期待されており、津市をはじめとする関係３市３町の首長で構成される中勢バイパス建設促進既成同盟会より早期の全線供用開始の要望を受けている。（平成16年1月29日）

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

国道２３号の交通量は約74,000(台/日)で依然として高い値であり、津市市街地では中部国際空港の開港に伴う海上アクセス港(贄崎港)への定時性を確保するためにも交通混雑の緩和が重要となっている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在までに10.93kmを部分供用。事業化区間の約44%、全線で32%の進捗となっている（H15年度末暫定形延長ベース）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

今後約5年間(平成19年度末)で4.5kmを暫定供用予定。今後約10年間で事業着手区間全線暫定供用予定。

施設の構造や工法の変更等

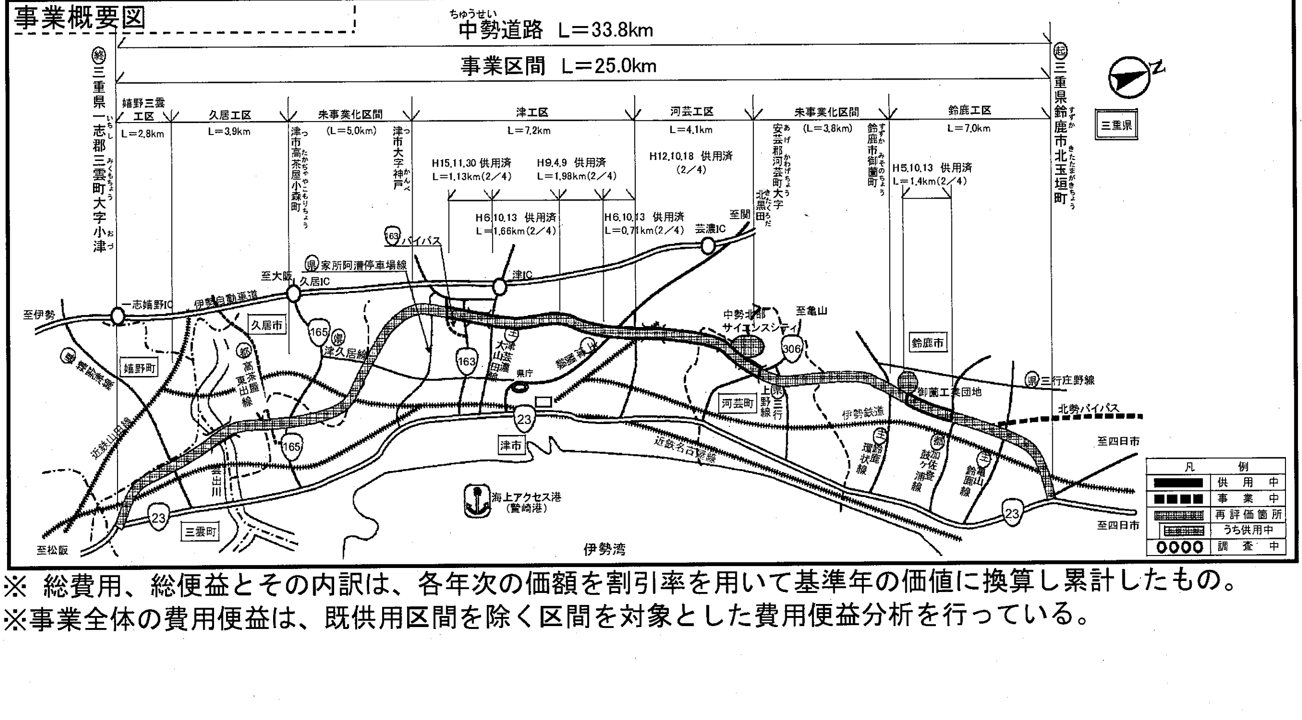
構造物の見直しや、高架計画の見直し（主要交差点のみを立体とする）でコスト縮減を図る。

対応方針	事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。